

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500329
法人名	有限会社 萩の台
事業所名	グループホーム・カミングケアステーション
所在地	愛媛県新居浜市政枝町2丁目3番32号
自己評価作成日	平成26年8月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

居室に閉じこもってしまわないように、フロアを広く取っており、居室を出るとすぐにフロアになっており、他の入居者方々と会話が弾むようになっています。これまでにご利用されていた日常生活用品などを持ってこられて出来るだけ在宅での生活環境に近い状態をたもてるように配慮しています。南側に農園と花壇があり、スタッフと共に野菜作りやお花作りに取り組んでいます。太陽の下で南側の農園で土を耕し、収穫物を調理に使い出来る範囲で調理にも参加できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●今年2月の家族会時、管理者から「運営推進会議の趣旨や目的」について説明をされ、今年7月の運営推進会議時は、ご家族1組の出席があった。会議では、利用者の状況やフェイリングした写真をお見せしながら日常の取り組みの様子を知っていただき、地域の方に夏越祭の清め札の書き方や、輪の廻り方を教えていただく等されている。

●家族会の後日、利用者からご家族宛にお礼や感想の手紙を書くことを支援して、毎月のご家族への送付書類と同封された。又、年賀状、暑中見舞い、母の日にもご家族に手紙を書くことを支援されている。手紙を受け取ったご家族から、「よう書けとった」と電話をくださる方もある。西条市出身の利用者から「西条祭りに行きたい」と希望があり、職員と数名の利用者で出かけ、だんじりを見学して感激されたようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム・カミングケアステーション

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏名 高橋 奈緒

評価完了日 26年 8月 20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所内の意識付けのため掲示し、研修時などに定期的に振り返りを行うように取り組んでいる。	
			(外部評価) 「家庭により近い環境の中で自分らしさを大切にたくさんの笑顔と自信をもって生活できる場を提供します」と理念をつくり、方針とともに居間の壁に掲示されている。施設長は、申し送り時や日々のケアの中で「その人らしさを引き出すケアを」と職員に話しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事(運動会や春・夏祭り・文化祭等)や自治会の総会等に出来る限り参加をしている。また、自菜園でできたジャガイモや玉ネギ等、御近所におすそ分けをさせていただいたり、三味線等のボランティアの方々やデイサービスやサービス付き高齢者住宅の入居者の方との交流会等を行っている。	
			(外部評価) 事業所は、地域の自治会に加入しており、地域の年間計画や回覧板で行事等の情報は把握されている。地域の運動会を見に行き、ラジオ体操等のプログラムに参加される利用者もいる。地域の祭り時には、太鼓台や神輿が事業所前に来てくれて、利用者は一緒に写真を撮ったり、御花を渡したりされる。事業所で行う「芋炊き会」時には、地域の組長と一緒に案内チラシを30件のお宅にポストイングされた。事業所の畑で採れた野菜を利用者と一緒に近所におすそ分けして、お礼にお菓子をいただくようなこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 見学希望者は随時受け入れを行い丁寧に対応し、地域の方々にもどのような施設か開放し芋炊き会・夏祭り等で見学をし、理解してもらえるように努めている。地域との避難訓練や、地域の救命救急の講習にも参加している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 奇数月の第3水曜日に開催している。活動報告や避難訓練や緊急時の対応についても情報交換などを行っている。また、家族の意向や意見なども発表している。意見を頂いたことは管理者会で検討し、スタッフへ申し送っている。家族、入居者の方、役員等出席をしている。	
			(外部評価) 今年2月の家族会時、管理者から「運営推進会議の趣旨や目的」について説明をされ、今年7月の会議時は、ご家族1組の出席があった。会議では、利用者の状況やファイリングした写真をお見せしながら日常の取り組みの様子を知っていただき、地域の方に夏越祭の清め札の書き方や、輪の廻り方等を教えていただく等されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の担当者とは、推進会議に参加して頂いたり、情報交換を行うように努めている。制度についての不明な点などその都度確認させていただいている。市の介護相談員受け入れ偶数月の第2水曜日に行っている。	
			(外部評価) 法人は、市からの子育て支援事業の委託を受け今年5月に近所に「キッズ・政枝」を開設しており、利用者は、0～3歳児の小さな子ども達とふれ合う機会がよくあり喜ばれるようだ。付き添って来られる保護者からは、「利用者が明るいのでびっくりした」「いい経験ができた」等の感想があった。9月の敬老会にも来られるようだ。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間のみ。身体拘束は行っていないが言葉や抗精神薬での拘束の危険性や防止を研修や勉強会などで行っている。	
			(外部評価) スタッフ会で研修を行い、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでおられる。管理者は「ちょっと待って」等の言葉にも気を付けるよう、職員に話しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止法について、職員研修を実施して、定期的に学ぶ機会を設けている。DV養成講座や講演会にも参加させて頂き学ぶ機会を設けている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を利用している利用者はいない。活用必要な利用者に備え、制度活用ができるよう学んでおきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項を十分に説明するように努めている。家族などの不安や疑問点にはその都度、説明を行い理解、納得していただくように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時などには意見や要望等を個別に確認するように努めている。家族会を開催し意見交換を行い、昼食をご入居者と共に食べて頂いた。また、運営推進会への参加も呼びかけ、参加して頂いた。 (外部評価) 年一回、「家族会」を開催し、ほとんどのご家族が出席されている。今年は施設長から消費税増税に伴う「利用料金の改定について」説明され、全家族から了承を得た。「職員は休みを取れているのか？」と気遣ってくださるご家族もあったようだ。「事業所で最期まで見てもらえるのか」という質問も出て、施設長は事業所の方針を話された。会の後、ご家族は利用者とペアになってケーキにデコレーションしてお茶を楽しまれた。ご家族から「スタッフの名前がわからない」と意見があり、事務室の前にスタッフの名前と顔写真を掲示されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会等を開催しその中で提案された意見を反映できるようにしている。	
			(外部評価) 月一回、職員会議を行い、意見や提案を話し合っている。レクリエーションで使用するお手玉や玉入れの用具の購入等の提案もされている。会議では「接遇について」「入浴介助の仕方」等、職員のスキルアップのための勉強会にも取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎日事業所へ出勤し、一人ひとりとの関わりを大切にしている。働きやすい職場作りに努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修や職場外の研修には積極的に参加するようにしている。認知症の研修への参加をすすめている。研修で学んだことをスタッフ会などで職員に伝える機会を設けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型部会に参加し、他事業所との交流や勉強の機会をいただいている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) その方の居室にて、個別に相談する機会を多く持ち、本人の困っていること、不安なこと要望などの確認を行って信頼関係を築き、ご本人をよく理解できるよう努め、入居による環境変化からくるストレスを軽減できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の訪問時に家族などに困っていること、不安なことや要望などを聞き確認している。また、事前に見学に来ていただき、上記のような確認を行い共に支援を行っていきけるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族と話し合い、状態や状況を把握しながら、必要と思われる支援を見極め、ニーズに応じて他のサービス利用も検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で入居者ができることはなるべく自分で行っていただいて残存能力維持ができるよう努め支援している。例えば調理の下ごしらえ、食器の片付け、シーツ交換、洗濯干しや野菜の収穫等の出来る方はスタッフと共に行う機会を多く設けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には生活状況の事や現状の様子や健康状態などを面会時や電話などでお伝えするようにしている。月に1度様子を報告する文章をお渡ししている。また、個別のファイルに写真を保存し家族間で会話が弾むように配慮させていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場との関係が切れてしまっている状態の方が多いが地域の行事や祭りへの参加など生活の中で行っていたことを取り入れるように努めている。また、お抹茶をたてたり、菜園作りなど自宅でされていたことを行える機会を設けている。 (外部評価) 家族会の後日、利用者からご家族宛にお礼や感想の手紙を書くことを支援して、毎月のご家族への送付書類に同封された。又、年賀状、暑中見舞い、母の日にもご家族に手紙を書くことを支援されている。手紙を受け取ったご家族から、「よう書けとった」と電話をくださる方もある。西条市出身の利用者から「西条祭りに行きたい」と希望があり、職員と数名の利用者で出かけ、だんじりを見学して感激されたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	利用者同士が生活の中で共に作業ができたり、共通の時間ももてるよう働きかけている。また、利用者間がトラブルにならないよう職員が間に入りながら対応している。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	利用者が入院した場合は定期的にお見舞いを行っている。サービス終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	個々に話を聞き、なるべく一人ひとりの思いを取り入れるように努めている。
			(外部評価)	
			入居時のアセスメント表から把握したり、ご家族から聞くこともある。日々の会話やかかわりの中で、嬉しそうなお顔が見られたり笑顔が見られる等をもとに、思いや意向の把握に努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	利用者や家族との日々の雑談や会話の中から今までの生活状況・環境を聞き取るように努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	一人ひとりの現状を共有できるよう常に言葉かけを行いながら、一人ひとりの状態に合わせた対応が出来るよう心掛けている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) スタッフ会や日々の朝礼、カンファレンスで意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。</p> <p>(外部評価) 個々のアセスメント表にて課題を分析し、利用者のご家族の意向を聞き、担当者会議で話し合い、ケアマネジャーが介護計画を立てておられる。入居時は3ヶ月後、それ以降は6ヶ月毎、又、状態変化時に計画を見直されている。日々の生活記録は、「生活状況」と「対応」を記録するようになっている。生活状況には計画の番号を記入するようになっている。ケアマネジャーは、利用者に「笑顔が見られるようになってほしい」「自信を持って欲しい」との思いを込め、介護計画作成に取り組まれている。</p>	<p>日々の利用者とのかかわりの中で知り得た思いや意向の蓄積に取り組み、さらに利用者主体の暮らしを支援できるよう、介護計画に反映していかれてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子を記録するだけに終わらず、一人ひとりの状態を把握し気づいたこと等を即、話合うことで情報を共有し、介護計画の見直しをしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 多機能にわたって支援していくためには、事業所内だけでなく、協力者や入居者家族との意見交換多くしながら取り組んでいきたいと思う。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 一人ひとりが活用可能な地域資源を把握し、本人主体に活用できるよう支援していきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医から適切な医療が受けられるように情報提供を行い支援している。また、かかりつけ医からの情報交換から医療的観察事項・介護上の注意点など助言をいただいている。	
			(外部評価) 協力医の往診が月2回ある。かかりつけ医や他の専門医を受診する場合はご家族が付き添っており、ご家族の都合が悪い時には職員が同行して支援されている。体調が優れないような時や急変時は、ご家族に連絡し、かかりつけ医に電話して指示をもらってから対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護職員は日々の状態把握や様子観察を行い、異常の早期発見・早期対処を心がけている。異常の際は看護職員と情報を共有し、家族や協力医に報告・相談のもと対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者の入院時には、情報提供を行っている。退院時には、情報提供をしていただき受け入れに対応している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化されている入居者には、対応についても細かく話し合い、異変時には早急に対応体制をとるように努めている。終末期ケアについては事例がないが、今後重度化された方と同様に適切な対応ができるようスキルアップに努めたい。	
			(外部評価) 利用者のご家族は、「最期まで事業所でみてほしい」と思っている方がほとんどのようであるが、事業所ではこれまで看取り支援の経験はなく、ご家族の中には「グループホームでは看取りはできない」と思っている方もあるようで、介護施設への移行となったような方もある。看取り時の往診も可能で、「ご家族の協力を得て、看取りも支援したい」と管理者と施設長は話されていた。「看取り支援」の研修にも職員3名が参加して勉強されている。職員の中には「死が怖い」と思っている人もあるため、勉強会時に住職に来ていただき「生と死について」話をしていただいた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当や初期対応の実践力についてはスタッフ会等において行っている。今以上の対応能力を身につけていくためにも、定期的に勉強会や講習会などに参加し、看護師を中心に実践力を身につけたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は毎月1回実施しているが、勤務状況により参加できていない職員がいたり、通常より多い体制での実施になっているため、日常により近い体制での訓練に切り替えている。地域の方との合同避難訓練なども行った。	
			(外部評価) 年2回、消防署の協力を得て訓練を実施されている。夜間の火災を想定した訓練時には、スムーズに避難誘導できたことを消防署から褒めていただいた。自治会の方も6名参加して、初期消火や避難誘導の手伝いをしてください、「避難経路は、夜間暗いので反射材を巻いたらどうか？」等提案もあった。消火器を使った消火訓練時は、利用者から「やってみよう」と希望があり、一緒に体験された。事業所では毎月、災害対策について話し合っており、職員の連絡網が回る所要時間を計る等されている。3月、地震が発生した際には、夜勤者は不安で動揺したようだが、その日は職員を増員し、ご家族にメールで利用者と建物の安全を連絡された。ご家族から「安心した」と感謝の返信があったようだ。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄時・入浴時などは個別で行いプライバシーを守り、損ねないような言葉かけを行うように意識しているが、今後も尊重していくよう心掛けていく。	
			(外部評価) 他利用者がいるところで個人的な家族のこと等は聞かないように気を付けておられる。調査訪問時、管理者は「お部屋を見せてもらっていいですか？」と利用者ご本人に許可を得てから部屋の案内をしてくださった。100円ショップでの買い物を利用者は楽しみにしており、あめ等のおやつを選んで買う方もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者自身の言葉や思いを伝えられるように信頼関係を築いていけるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせて生活できるよう努めているが、個々の心身の健康状態等を考慮しながら、職員側の都合に合わせての生活を過ごさないように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望で散髪の段取りを行ったり、髭剃りやお化粧ができる機会を作ったりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来ることを中心に、共に調理を行ったり、自菜園で作った野菜や頂きものの野菜を活用している。メニューも入居者に聞きながら決めたり、行事食を大切にしたりしている。お誕生日には、リクエストメニューや希望のおやつを提供させていただいている。	
			(外部評価) 献立は利用者や職員の意見を聞きながら施設長が1ヶ月ごと決めて、赤、黄、緑、黒、白の色の食材を摂れるよう考えておられる。利用者もできることを職員と一緒に出来るよう支援されており、調査訪問時には、ハンバーグの具をこねたり、焼いたりされており、職員は、利用者と同じテーブルで食材や味付けの話をしながら一緒に食事をされていた。食器は、プレートを使ったり陶器を使ったり、趣向を変えて食事を楽しめるよう工夫をされている。時にはお弁当箱に詰めて外で食べることもある。正月には元寿司職人であった職員が利用者の前で握ってくれて「すし屋」の雰囲気を利用者もたいへん喜ばれたようだ。食後、食器やお盆を拭いたり、おしぼりを巻いたりする利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量・水分量を確認し、毎食記録を行っている。栄養のバランスを考えながら献立を考えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、言葉かけ・確認・記録を行い口腔ケアを行っている。年に1回訪問歯科協会による歯科検診を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 車椅子使用の方も日中は出来る限りトイレで排泄が行えるよう支援している。排泄記録などを参考にトイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 個々の排泄パターンをみてトイレ誘導したり、声掛けをしてトイレで排泄できるよう支援している。入居時、紙おむつを使っていた方が「腕の力があり、手すりを持たば立ち上がれるのではないか」という職員の気付きからトイレでの排泄を試み、トイレで排泄できるようになり、ご本人は「トイレですると気持ちがいい」と喜ばれているようだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 1日に1回ヨーグルト、黒酢や野菜ジュースなどを摂取していただいたり水分摂取量にも注意している。腹部のマッサージや腹式呼吸等の体操なども取り入れている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿うように対応し、入浴剤や柑橘類の湯など楽しんでもらっている。体調に合わせてシャワー浴や清拭も行っている。	
			(外部評価) 基本的には、週3回入浴を支援しており、お気に入りのシャンプーを用意している方もある。又、同性介助を希望する方にも応じておられる。みかんの季節には、皮を干して入浴剤にしたり、柚子湯を楽しむこともある。一番風呂は寒いからと皆の後を好む方もある。脱衣場には乾燥肌の方用の保湿クリームを用意されていた。リフト浴も設置されているが、現在使用している方はおられない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間・起床時間は決めておらず個々の希望にあわせて対応している。日中も休息したい方は自由に休んでもらっている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の情報はファイルに綴り職員がいつでも確認できるようにしている。また、薬の変更時には副作用などの申し送り、状態観察を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に合わせた楽しみや役割が持てるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望に合わせた外出は予定を立て、職員の勤務状況により対応できる限り対応している。全体の外出も行事などへの参加を地域の方たちや関係事業所のボランティアの協力を得ながら対応している。	
			(外部評価) 近くの遊歩道を散歩したり、遊歩道を通って買い物に出かけることもある。地域の公民館で行われる文化祭や夏祭りに出かけており、文化祭に参加した際には、公民館の2階へ上がる際、青年団の方が車椅子を2階に上げる手伝いをしてくださった。新居浜祭には、希望者は太鼓台のかき比べを見に行けるよう支援された。梅、藤等、季節の花を楽しみに出かけたり、みかん狩りにも出かけておられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人で所有している方も数名おられ、飲み物やおやつ等を購入されている。ほとんどの人が家族の希望で所持しておらず、家族が管理をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話については、本人の希望時には使用できるように配慮している。年賀状や暑中見舞いなどを家族等に郵送している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自宅で使用していたものや馴染みの物を使用できるよう配慮している。共有スペースは季節の花や制作を貼ったりしている。</p> <p>(外部評価) 建物前の田んぼや南側には、事業所の畑があり、オクラ、サツマイモ、かぼちゃ等、いろいろな野菜や花を育てておられる。草取りや収穫を職員と一緒にする利用者もある。昔、農業をしていた方は職員に支柱の立て方等を教えてください。居間の机の上やトイレには、事業所の庭に咲いた花を育てておられる。窓の外には、遮光ネットが掛けてあり、天窓からの日差しを抑えられるようカーテンで工夫されていた。居間は広く、午後からは居間で歩行練習する方もあった。マッサージチェアや足のマッサージ器も設置されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) それぞれの空間に椅子や畳を設置し、くつろげ自由に雑談を楽しめるような環境づくりに配慮している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 自宅で使っていたものや、馴染みの物を使用できるように配慮している。安心できる空間づくりを心がけている。</p> <p>(外部評価) 各部屋には空気清浄機、エアコンと扇風機が備えてあり、エアコンが嫌いな方は扇風機を使われるようだ。敬老会時の写真を貼ってある方もいた。孫の旅行のお土産のぬいぐるみを飾ってある方もいた。マンガが好きな方は、漫画本があった。演歌歌手のファンの方は、写真入り団扇を飾っておられた。ご家族来訪時の話題になるように、居室には、利用者個々の写真をA4サイズに拡大してファイルし、日にち等の付箋を付け置いておられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) アセスメントに基づき利用者の力を引出して安全な生活がおくれるようにしていきたい。</p>	